

社会構成主義とは

By Ken Gergen, Mary Gergen, and Diana Whitney

Lunch time meeting at 20th Taos Conference

April 10th, 2013

@Sagebrush Inn, Taos, NM, USA

Filmed by Max Watanabe

Diana:まず、第一の質問ですが、端的に言うと、社会構成主義とはなんですか？

Ken: それは答えるのに簡単ではない質問ですね。(笑い)

社会構成主義については“もの”のように固まった考えは無いのです。

私は社会構成主義とはダイアログの連続と思っています。知識、客観性などなどの世界を動き回って、考え方を再構成するのです。われわれが考えているリアリティとか、理由とか、良し悪しの判断とかは、我々の関係性から来る副産物と思っています。リアルであると言われることをそのまま取り入れたり、外の世界（の考えを）そのまま取り入れたりするのではないのです。

我々は良く言います、我々のなかでわかちあおうよ。みんなでその考え方を一度しっかりホールド（理解）して、そのうえで代替案（新たな考え方）をつくりあげようよ。

（このようにして）ビジョンを超えて動き回る能力を持つのです。それぞれの生き方や主張に固執しません。自分たちが持っている独自の考えがほんとうに事実なんだとか、リアルなんだ、と言う立場を防御する必要が無いのです。

我々のダイアログは終わることがないと言えるでしょう。私たちが誰もが参加して（対話することによって）リアリティ(現実)やオーソリティ(権威づけられていること)と言われるような課題を考えます。これによって、私たちは有望な未来をつくり、みんなが参加できる未来をつくっていくことが出来ると考えているのです。

Mary:わたしはちょっと違った点から見てみたいと思っています。

私たちは社会構成主義をメタ・セオリーと思っています。これは、つまり、働いている人や生きている人が誰でも生きることに関する考えを持っています。生き方に主張を持っています。物理学者でも、2歳の子供の母でも、教会の牧師でも・・・これらの人達の主張は構成されたもの（つくられたもの）とみることができます。

だから、よく真実を扱うような人達、物理学者などが典型的なのですが、あるいは、ファンタジー、寓話や、民話など。自然科学を研究している人達が真実の学問で、その他のこと

は・・・。(Ken:宗教が神話だとか)・・・(Max 追記:真実ではないということではないのです。)

だから、わたしが好きなのは次のような考えです。誰もがどんなにその考え方にコミットしていても、その閉じられた世界のなかで話している、だから、他の世界では他の見方があるのです。もし、研究所での研究について話すのはそのシステムの中での話ですし、孫といっしょに遊ぶのをもう一つのシステムの中での話です。それは全部 OK なのです。だから 2 級の知識だとか 1 級の知識だとかいうのはありません。すべてひとつ (同じぐらい大事) なのです。

Diana : メアリーさん、その考えは好きです。私たちはコンサルタントして、AI を使っているのですが、私たちは構成主義の原則について話しています。いろいろな方法でそのメタ・セオリーの考えを取り入れて、私たちの仕事 (=AI コンサルティング) のデザインに埋め込んでいるのです。だから、私たちは社会構成主義を教えているのではなくて、社会構成主義を利用しているのです。それぞれ主張の違いの中に住んでいるコミュニティの人達を、対話のシリーズをすることによって、彼らがより大きな、より生産性の高い、より成功できる知識をベースとした考え方や可能性を全体の組織の中につくりだしていくのです。